

おはようございます。今朝も続けて使徒言行録を学んでいきたいと思えます。使徒2章で、ペトロのメッセージに群集がどのように応答するかがわかります。2章の初めには、弟子たちが集まって祈っているときに、聖霊が力をもって彼らに降られました。それが起こったとき、次のようなことが起こったとみことばは言います。**使徒 2:4** 「すると、一同は聖霊に満たされ、“霊”が語らせるままに、ほかの国々の言葉で話しました。」



その時、ペトロは立ち上がって力強いメッセージを語りました。ペトロの論法は簡潔で力強く、一人ひとりに語りかけるものでした。ペトロは、イエスの人生、死、よみがえりについての基本的な事実を振り返り、そのすべては旧約聖書にあるメシアについての預言を成就するために必要であったことを説明しました。さらに、聖霊降臨もまた預言の成就だと説明しています。そして、イエスが主でありキリストであるという明白な根拠を述べた後、そのメッセージが直接一人ひとりに語られたものであることを群集全員に知ってもらうため、「あなたがた」がイエスを殺したのだと力説しました。**使徒 2:36** 「だから、イスラエルの全家は、はっきり知らなくてはなりません。あなたがたが十字架につけて殺したイエスを、神は主とし、またメシアとなさったのです。」



ペトロのメッセージに群集はどのように応答したでしょう。では、使徒 2:37-47 を読みましょう。

I. 聖書朗読 使徒言行録 2:37-47、新共同訳

2:37 人々はこれを聞いて大いに心を打たれ、ペトロとほかの使徒たちに、「兄弟たち、わたしたちはどうしたらよいのですか」と言った。 2:38 すると、ペトロは彼らに言った。「悔い改めなさい。めいめい、イエス・キリストの名によって洗礼を受け、罪を赦していただきなさい。そうすれば、賜物として聖霊を受けます。 2:39 この約束は、あなたがたにも、あなたがたの子供にも、遠くにいてるすべての人にも、つまり、わたしたちの神である主が招いてくださる者ならだれにでも、与えられているものなのです。」 2:40 ペトロは、このほかにもいろいろ話をして、力強く証しをし、「邪悪なこの時代から救われなさい」と勧めていた。 2:41 ペトロの言葉を受け入れた人々は洗礼を受け、その日に三千人ほどが仲間に加わった。

2:42 彼らは、使徒の教え、相互の交わり、パンを裂くこと、祈ることに熱心であった。2:43 すべての人に恐れが生じた。使徒たちによって多くの不思議な業と行われていたのである。 2:44 信者たちは皆一つになって、すべての物を共有にし、 2:45 財産や持ち物を売り、おのおのの必要に応じて、皆がそれを分け合った。 2:46 そして、毎日ひたすら心をつにして神殿に参り、家ごとに集まってパンを裂き、喜びと真心をもって一緒に食事をし、 2:47 神を賛美していたので、民衆全体から好意を寄せられた。こうして、主は救われる人々を日々仲間に加え一つにされたのである。

II. 教え

ペトロのメッセージは、群集に大きな衝撃を与えました。使徒 2:37、新改訳ではこう書いてあります。「2:37 人々はこれを聞いて



て心を刺され、ペテロとほかの使徒たちに、『兄弟たち。私たちはどうしたらよいでしょうか。』と言った。」彼らは心を刺されたとあります。なぜでしょう。それは、聖霊によって自分たちの罪を悟ったからです。自分たちが罪人で、何よりも救い主を必要としているということに突然気づいたのです。それで、「兄弟たち。私たちはどうしたらよいでしょうか。」と助けを求めたのです。

聖霊は、平和を作るお方です。神と人との間に平和をもたらしてください。しかし、私たちが平和に与るには、まず自分の罪を悔い改める必要性に気づかなければなりません。イエスがヨハネ 16:8 で聖霊について何と言われたか覚えていますか。イエスはこう言われました。「その方が来れば、罪について、義について、また、裁きについて、世の誤りを明らかにする。」かたくなで傲慢な人間を悔い改めに導くことは、聖霊の最も偉大な働きのひとつです。

群集は自分たちの罪を悟り、どうすればよいのかとペトロに尋ねました。使徒 2:38 にはこうあります。「すると、ペトロは彼らに言った。「悔い改めなさい。めいめい、イエス・キリストの名によって洗礼を受け、罪を赦していただきなさい。そうすれば、賜物として聖霊を受けます。」聖霊は平和を作るお方です。しかし、私たちは罪の告白、悔い改め、そして神のおっしゃるすべてのことに対する従順をとおして、この平和を受け取る必要があるのです。



多くの場合、新しくクリスチャンとなった人にとって、洗礼を受けるという決断が従順の第一歩です。しかし、洗礼という儀式が私たちを救うものではありません。そうではなく、私たちは罪に背を向け、イエス・キリストを自分の人生に迎え入れたときに救われます。私たちがイエスを主として信じ、主の御名を呼んで罪の赦しと救いを求めるなら、私たちは救われ、賜物として聖霊を受けます。

救いは、主の御名を呼び求める者には誰でも無償で与えられます。ペトロはメッセージの前半でヨエル書 2:32 を引用し、使徒 2:21 でこう言っています。「主の名を呼び求める者は皆、救われる。」そして、ペトロはメッセージを続けてこう言っています。(使徒 2:39) 「この約束は、あなたがたにも、あなたがたの子供にも、遠くにいるすべての人にも、つまり、わたしたちの神である主が招いてくださる者ならだれにでも、与えられているものなのです。」明らかに、ペトロのメッセージは今日の私たちのためのものでもあり、世界中のすべての人のためのものです。私たちは皆、救いの賜物を必要としています。そして、感謝なことに、主はそれを誰にでも無償で与えてくださいます。パウロは同様のことをローマ 3:22-24 でこのように語っています。「すなわち、イエス・キリストを信じることにより、信じる者すべてに与えられる神の義です。そこには何の差別もありません。3:23 人は皆、罪を犯して神の栄光を受けられなくなっていますが、3:24 ただキリスト・イエスによる贖いの業を通して、神の恵みにより無償で義とされるのです。」



初めての五旬祭の日、ペトロの力強いメッセージとそれに続く勧めにより、多くの人々が悔い改め、イエス・キリストを信じる信仰へと導かれました。使徒 2:41 にはこうあります。「ペトロの言葉を受け入れた人々は洗礼を受け、その日に三千人ほどが仲間に加わった。」すごいですね。主をほめたたえます。7月に、私たちは4人の方の洗礼を海辺で祝いましたが、一日で三千人の洗礼をすれば、盛大なお祝い事でしょう。ただし、誰かが信仰を持って、主の命じられたことに従って洗礼を受けるなら、それが一人だろうと千人だろうと、もちろん私たちはうれしいです。

ここで興味深いと思うのは、歴史上の初代教会が巨大教会だったことです。120名ほどで始まった教会でしたが、初めて公にメッセージが語られた日に、聖霊が彼らに降られ、約三千人が新しく信徒として加えられたのです。OICにも通常の日曜礼拝には大人が120名ほどだと思えます。それが一日で三千人も新しい信徒が増えたらどんな感じが想像できるでしょうか。もちろん感動的

ではありますが、同時に困惑するのではないのでしょうか。どうなるでしょう。では、彼らがどうしたか見てみましょう。

使徒 2:46 はこう言っています。「そして、毎日ひたすら心を一つにして神殿に参り、家ごとに集まってパンを裂き、喜びと真心をもって一緒に食事をし、」まず気づいていただきたい点は、毎日神殿で大勢で集まっていたということです。このような集会は、通りがかりの人が誰でも参加できる公共の場所で行われていました。そして、おそらく、説教、教え、詩篇の賛美などが含まれていたと思われます。次に注目していただきたいのは、家庭でも集まって食事や交わりをしたという点です。大きな集会と少人数での集まりが両輪となり、良い説教や教え、および社会への力強い証を大きな集会をとおして実現する一方で、親しい交わりや一対一での働きが家庭集会によって保たれたわけです。

私たちの教会は小規模ですが、OIC でも同様のことが行われています。大きな集会は日曜礼拝、そしてスモールグループがほとんど毎日行われています。皆さんが多忙なことはわかっていますが、ここで皆さんに呼びかけたいと思います。もしあなたがスモールグループに参加していないなら、OIC での教会生活の半分をまだ味わっていないことになります。親しい交わりをしたり、お互いのために祈って励まし合うことを学んだりするのは、大半がスモールグループやアルファコースをとおしてです。来週もこのことについてもっとお話したいと思います。もしスモールグループに参加していないなら、参加することを祈り始めてはどうでしょう。そうすれば、より充実したクリスチャン生活を体験できるでしょう。

では、もう一度使徒 2:42-45 を読んで、新しい信徒たちの生活がどんなものであったか考えてみましょう。彼らの人生にどのような変化が起こったのでしょうか。**使徒 2:42-45**「**2:42** 彼らは、使徒の教え、相互の交わり、パンを裂くこと、祈ることに熱心であった。**2:43** すべての人に恐れが生じた。使徒たちによって多くの不思議な業としるしが行われていたのである。**2:44** 信者たちは皆一つになって、すべての物を共有にし、**2:45** 財産や持ち物を売り、おのおのの必要に応じて、皆がそれを分け合った。」

彼らがイエスを信じて聖霊を受ける前の人生についてはあまり詳しくわかりませんが、クリスチャンとしての新しい人生は、昔の人生とまったく違ったものだったと言えるでしょう。聖霊の力により、使徒 2 章の新しい信徒たちは人生を変えられ、生まれ変わったのです。価値観が変わりました。物事の優先順位が変わりました。新しい友人ができました。いいえ、新しい家族ができたと言うべきでしょう。信仰にある兄弟姉妹です。神のみことばに飢え渴き、物惜しみをしない心へと 180 度変えられ、すべてを分け合いました。

私の個人的な体験を少しお話します。私は今も多くのことで葛藤がありますが、イエスを信じた後の生活に起こった大きな変化がいくつかあります。まず、価値観と物事の優先順位がまったく変わりました。聖書を読むことが第一となりました。私は神のみことばに飢え渴いていたのです。教会に出席し、他の信徒たちと時間を過ごすこともとても大切なことになりました。自分の人生の中で、奇跡を体験しました。そのひとつは、聖霊のバプテスマを受けたことです。もうひとつは、アルコール依存を奇跡的に癒されたことです。もうひとつの変化は、気前良くなりたいたいという気持ちが生まれたことです。それで私たち夫婦は教会にも定期的に献金し、友人や家族にも経済的支援をするようになりました。

あるとき、友人の奥さんが家で仕事ができるようにパソコンが必要だという話を聞き、カレンと一緒に祈って、パソコンを買って友人にあげることにしました。また別のとき、初めて訪れた教会で会堂建築のための献金を募っているという話を聞き、カレンとともに祈りました。そして、その教会に行くのは初めてでしたが、その場で小切手を切りました。そのようにして、日本に来ることを



知る何年も前から、主は私たちの心と生き方を働きのために整えてくださったのです。私たちは借金のない生活、惜しまずささげること、そして貯蓄することを目標にしていました。

ある日、私はこのような小さな図を紙に書いて、私たちの目標としました。この図は、収入の使い道の目標として、4分の1を献金や寄付、4分の1を貯蓄、残りの半分を生活費にあてるというものです。これはあまり深く考えて書いたものではありません。「主よ、あなたは私たちに何を望んでおられるのですか」というシンプルな祈りから生まれた図です。私たちが祈った後、これを目標にするべきだという思いを主が私の心に示してくださったのです。



これは主が私たちの人生にしてくださったことです。そのことをお分かりいただきたいのです。本当に私たちではなく神がこのことをしてくださったので、私たちに褒めたりしないでください。皆さんとこれを分かち合ったのは、神が目に見える形で私たちの人生を変えてくださったという一例として挙げたかったからです。クリスチャンになる前なら、こんな目標掲げることは考えもしなかったでしょう。けれどもクリスチャンになって、「主が私たちにこうしてほしいと思っておられるみたいだ」と思ったので、それを目標としたのです。そして、生活を簡素化して行って、この目標が実現し、数年間それに従って生活しました。宣教師として日本に来たとき、この図に基づいた生活はできなくなり、貯蓄を切り崩して生活しなければならなくなりました。けれどもそれでよいと思っています。なぜなら、これもすべて主の奉仕のために私たちを備える主のご計画の一部だったと思うからです。

誤解しないでください。皆さんのお金の使い方をこのようにすべきだと言っているのではありません。そうではなく、本当にイエスを信じるなら、あなたの生き方や価値観が変わると言いたいのです。皆さんにお尋ねします。あなたはイエス・キリストに従う人ですか。もしそうなら、イエスを知ってあなたの人生はどう変わりましたか。クリスチャンの人生は新しい人生、生まれ変わった人生です。もし本当にイエスを知ったのなら、生き方、態度、価値観に変化があったと言えるはずですが。もし小さかったときに信仰を持った人の場合は、イエスを信じる前の人生を思い出せないかもしれません。けれども、大人になってイエスを信じた人の場合は、自分の人生に起こった変化がわかるはずですが。

ヨハネ3章で、ニコデモは夜にイエスのところにやってきました。ニコデモはこう言っています。ヨハネ 3:2 「ある夜、イエスのもとに来て言った。『ラビ、わたしどもは、あなたが神のもとから来られた教師であることを知っています。神が共におられるのでなければ、あなたのなさるようなしるしを、だれも行うことはできないからです。』」ニコデモはファリサイ派に属するユダヤ人の議員でした。宗教指導者であり政治指導者だったのです。ですから、身分も高く、おそらく裕福だったでしょう。ニコデモはイエスの奇跡が本物だと信じ、イエスが神から送られた教師だと思っていました。しかし、そのように信じるだけでは救われません。イエスが彼に何と言われたか覚えていませんか。ヨハネ 3:3 「イエスは答えて言われた。『はっきり言うておく。人は、新たに生まれなければ、神の国を見ることはできない。』」



ニコデモは子どもの頃から神を信じていました。そして、イエスが教師であり奇跡を行う人だと信じました。けれども、ニコデモは救われていませんでした。なぜでしょう。それは、イエスが偉大な教師とか宗教指導者だと信じるだけでは十分でないからです。イエスが神から送られた使いであると思えるだけでは不十分なのです。

ニコデモについて考えてみましょう。彼はファリサイ派に属する人でした。ですから、来

たるべきメシアについての預言を知っていました。イエスの奇跡についても知っていました。そして、それらの奇跡が、イエスが神によって送られたことの証しであるということも認めていました。それで、ニコデモはイエスにお会いしたいと思ったのです。しかし、彼は他の人から非難されるというリスクを負いたくなかったので、夜にイエスを訪ねていきました。自分がイエスを訪ねるところを誰にも見られたくなかったのです。ニコデモはイエスに興味を持っていますが、自分の罪を告白して悔い改めるところまではいきません。また、ニコデモはイエスを主、とか救い主とは呼んでいません。ニコデモの人生は変わっていません。

ここで、手を挙げたりする必要はありません。けれども、皆さんにお聞きします。「あなたはニコデモですか。」非難したり怖がらせたりするつもりはありません。しかし、皆さんのことが心配なのです。ニコデモのような人が世界中の教会にたくさんいると思いますし、ここ OIC にも少なからずおられると思うからです。

職場の人が、あなたがクリスチャンであることを知らないのなら、あなたはニコデモなのかもしれません。人に非難されたくないからイエスのところに隠れてやってきているのかもしれませんが。イエスは偉大な教師でたくさんのことを学べるけれども、自分の人生の主だとは思っていないなら、あなたはニコデモなのかもしれません。イエスは知恵のある宗教指導者だと思うけれども、イエスに罪を告白したり、あわれみを求めたりする必要を感じないなら、あなたはニコデモなのかもしれません。信心深い家庭に育ったけれども、自分は神の恵みとあわれみを必要とする罪人であることを認められないなら、あなたはニコデモなのかもしれません。信じるといって洗礼は受けたけれども、生き方にまったく変化がないなら、あなたはニコデモなのかもしれません。

もしあなたがニコデモなら、それはとても危険なことです。なぜなら、ニコデモはまだこの時点で救われていなかったからです。しかし、「ニコデモはまだこの時点で救われていなかった」というところが味噌です。この出会いの後ニコデモは救われたと私は信じます。ニコデモが明るい通りの真ん中で「イエスは主だ！」と叫んだ日がやってきたと私は思います。しかし、その日が来るまでは、ニコデモは罪の中に失われた状態だったのです。

III. 結び

今朝、皆さんにご自分の心を探っていただきたいと思います。あなたはニコデモでしょうか。それは、神とあなただけにしかわかりません。しかし、もし自分がニコデモかもしれないと思うなら、それを変えるチャンスです。ローマ 10:9 はこう言っています。「**口でイエスは主であると公に言い表し、心で神がイエスを死者の中から復活させられたと信じるなら、あなたは救われるからです。**」救われるには、イエスが偉大な教師や宗教指導者以上のお方であると認識しなければなりません。イエスは私たちの主であり、神であります。救われるには、イエスが罪と死に打ち勝つ力と権威を持っておられると信じる必要があります。このことは、イエスの復活が明らかにしていることです。イエスをあなたの人生の主として信じ、周りの人にイエスがあなたの主であり救い主であることを伝えましょう。罪を告白し、悔い改め、イエスがあなたの罪を赦してくださることを信じましょう。そしてイエスの復活を信じましょう。そうすれば、あなたは救われます。

イエスを主であり救い主として信じるなら、あなたも変えられた人生を体験するでしょう。もっと適切な言い方をすれば、交換された人生を体験するでしょう。古い人生が過ぎ去り、新しい人生の幕開けです。あなたは生まれ変わることができます。そして救いの確信を得ることができます。クリスチャンは完璧な人間ではありません。私たちは至らない者であり、罪を犯してしまいます。恥かしながら、私も失敗ばかりしています。毎日、「主よ、罪人である私をあわれんでください」と言わなければならないようなことを言ったりしたりしてしまいます。主の前にきよく生きることをちゃんと学べるように、私のためにお祈りください。クリスチャンは祈りが必要です。なぜなら、私たちは霊の戦いを戦っているからです。しかし、どんな葛藤があるにせよ、イエスに自分の人生を委ねきっているなら、イエスとの関係が私たちの人生を変えてくれたことが分かるはずで

す。

もしあなたが、自分はイエスを知って人生が変えられたとはっきり言えないなら、本当にイエスを主であり救い主として知っているのか自分に問いかける必要があるのかもしれませんが。それは、私が決めることではありません。主とあなたとの間のことです。けれども、イエスとの関係が本物であるかどうか疑問があるなら、または、救いの確信や変えられた人生の証がないなら、イエスを信じる決意を新たにして、一層深めることをお勧めします。イエスは主です。そう宣言してください。信じてください。そして救われてください。では、祈りましょう。

IV. 祈り

愛する天の父、創造主なる神よ、
今日、ともに集まりあなたを礼拝できる特権を感謝いたします。私たちに生きるべき道を教え、救いの源であるイエスへと導いてくれる聖なるみことばをありがとうございます。何よりも、イエスの十字架を感謝します。そして、イエスを主であり神として信じる者すべてにあなたが備えてくださった救いを感謝します。神の御子、子なる神、私たちの主、救い主であるイエスの御名を賛美します。主よ、今来てください。そして、私たちの心を探ってください。もし私たちが本当に信仰を持っていないなら、まだ救われていないなら、あなたの聖霊によってそのことを示してください。そして、私たちの心に働いてください。私たちがイエスを信じ、主であると宣言できるように助けてください。私たちの罪を赦し、きよめてください。あなたの御許に私たちを引き寄せてください。イエスといつものともに歩めるように助けてください。あなたの聖霊で満たし、私たちの人生を変えてください。私たちの言動があなたの御名に栄光をもたらすことができるようにしてください。あなたの恵みとあわれみをもって、一人ひとりを祝福してください。あなたの愛で私たちの心を満たしてください。イエスの御名によって祈ります。アーメン。